

大阪府次世代自動車充電インフラ設置に係るビジョン

府内を14エリアに分け、幹線道路がある交通量の多いエリアに原則各20基、主要観光地・集客施設のあるエリアに原則各10基、それ以外のエリアに原則各5基の、計175基をビジョンに位置づけている。(2013.4公表)

EV関連の情報発信と産業振興で「EV・PHVリーディング都市・大阪」をめざす



グランフロント大阪でオリックス自動車がメルセデス・ベンツ日本とのコラボ企画として実施中の「スマートEVカーシェアリング」



1 流麗なEVスポーツカー「トミーカイラZZ」の展示で注目を集めるグランフロント大阪のナレッジキャピタル「The Lab.」 2 デンゲンが開発した移動式急速充電器 3 スマートハウスが建ち並ぶ堺市のダイワハウス「晴美台エコモデルタウン」。タウンの共用セカンドカーとして日産リーフ1台をカーシェアリングに導入 4 グランフロント大阪のEV・HVタクシー専用乗り場

現状

充電インフラ整備は順調

2011年度末時点でEV1026台、PHV193台だったが、最新データでは2300台以上と1年余りで約2倍に増加。充電インフラは主にカーディーラーを中心に量販店や商業施設等での整備が進み、2012年度末時点で急速充電器60基、200V普通充電器322基。

目標

「2台に1台をエコカー※に」が目標

2020年度にEV3万1000台・PHV2万2000台の計5万3000台を目標に、2015年度までにEV7000台・PHV5000台の計1万2000台が中間目標。充電インフラは2015年度末までに急速充電器33カ所、2020年度までのできるだけ早い時期に200V普通1300基以上が目標。

※エコカーとは、EV・PHVを含め、HVや天然ガス自動車等が該当

阪

神地域は蓄電池産業に携わる企業が多いことから、大阪府ではEV等の新エネルギー関連産業の集積を目的に「大阪EVアクセシビリティプログラム」を策定。産学官連携の協議会を立ち上げるなど、積極的にEV推進に取り組んできた。

スポーツEVやカーシェア、タクシーなど最先端情報拠点にEVトピックス集結！

グリーンロードモータースのスポーツEV「トミーカイラZZ」を展示。同ビル地下では、オリックス自動車がメルセデス・ベンツ日本との協働で「スマートEVカーシェアリング」を展開。「関西イノベーション国際戦略総合特区」の大阪の一等地を拠点に、EV関連企業が存分に存在感を発揮している。

一方、西淀川区ではデンゲンが出力10kWの日本初の「エリア限定型移動式急速充電器」

今後の展望

めざすはEV・PHVリーディング都市

大阪が高いポテンシャルを有するリチウムイオン電池とその有力用途であるEVを結びつけ、新エネルギー関連産業の集積を促すのが目標。移動式急速充電器や公用車カーシェアリングなど注目の動きも登場し、意識の高い民間企業が積極的な取り組みを始めている。

利用者の視点

普通充電器を有効に

「長時間滞在中の継ぎ足し用であれば急速である必要はない」と考える利用者の声もあり、比較的設置コストが少ない普通充電器も重要な社会インフラとなる。ショッピングセンターや観光施設など目的地で充電して復路に備える使い方も有効である。

を開発。府のビジョンに適合した、国の補助金対象品として認定されるなど、中小企業の間にも活力が生まれている。さらに堺市で公用車EVカーシェアリングやエコタウンのEVカーシェアなど、ユニークな取り組みも登場。「EV・PHVリーディング都市・大阪」をめざす新たな動きに注目したい。